

(様式4)

令和7年12月15日

令和7年度 第2回 大阪市立住吉幼稚園 学校協議会 実施報告書

校園名 大阪市立住吉幼稚園

校園長名 村井 美紀

日 時	令和7年12月11日（木）17：00～18：15（1時間15分）	
場 所	住吉幼稚園 園長室	
委員 など	栗山 誠（会長） 西田 陽子（委員） 生嶋 雅人（委員） 木田 宏子（委員） 喜多尾 瞳実（委員） 久保 菜美（委員）	
校園	村井 美紀	
区役所	教育文化課 森	
議題	(1) 本年度の「運営に関する計画・中間評価」について (2) その他	
協議 要旨	協議の結果 (1) ○目標及び取り組み内容に関しては、概ね理解を得られた。	意見の概要 ○保健指導は子どもが見つけた危険を取り上げて、子どもたちと一緒に安全について考えていることがよい。子ども目線での危険箇所なので、大人では気付かない危険に気付くことができる。保健指導後も危険マークがつけられていて、子どもも気を付けやすい。 ○保健指導に使った教材がトイレを出てきたところに、触って見られるようになっている。内容も工夫されていて、子どもが遊びながら身につくようになっている。 ○養護教諭は数年の経験を重ねて、保護者が見ても、教職員が公立幼稚園の教育を理解して保育していることが、嬉しく感じている。 ○中学校の体育大会を見に行ったり、小学校と一緒に避難訓練をしたり、交流があることで、地域の中学生や小学生と顔見知りになり、地域で出会ったときに声を掛け合うことができる。実際に道で声をかけられた。何かあったときにも顔見知りがいることは安全につながる。 ○小学生5年生とブックハウスで、グループに分かれて、絵本の読み聞かせをしてもらった、幼稚園の子どもたちは「このお兄ちゃん好き」と優しさを感じたり、緊張しながらも憧れの気持ちをもったりすることにつながったということだった。すごくよいことだと思う。 ○小学生側からも「かわいい」といいながら、年下の子どもに関わる機会で子どもの様子がいつもと違っていた。普段見られない様子が見られて、交流のメリットを互いにあることが感じられていると小学校の先生は感じてくださった。 ○中学校や小学校との交流がたくさんあり、今後も続けてほしい。 ○本日の話や作品展の様子を見ても、幼稚園の教育は、教えるということではなく、子どもの主体性を大事にして、「どうしたい？」と子どもたちの思いを聞きながら、どんなことでも受け止めるという態度で、常にその姿勢で保育している。だからこそ、子どもたちは、自分の表現したいこと

		<p>を出し、自ら悩み、解決していき、過程を大事にしていることが保育で感じられる。常に子どもの視点で保育をしているからこそ、のびのびとした表現になっていると思う。待ってもらえる、見守ってもらっているという安心感が、思いや製作での表現につながり、みんなと同じスピードでなくとも、いつまでも納得がいくままですることができていると感じた。</p> <p>○話の中にあった、縄跳びを教材としても、まず跳ぶではなく、「何をしようかな」と子どもと考えながら遊んでいると聞き、大事だと思った。縄跳びだけでなく、他のことにもつながる。縄跳びだけでも、いろいろな遊び方があるという発想を大事にしていっていると感じる。</p>
協議資料		<p>○運営に関する計画・中間評価</p> <p>○添付資料（安全指導年間計画・異年齢交流年間計画・地域や小学校との交流年間計画・保健指導の取組）</p> <p>○住吉幼稚園をよりよくするための保護者アンケート結果（1・2学期）</p> <p>○保健活動についてのアンケート（1・2学期）</p> <p>○園だより・保健だより（5～12月）・夏休みのたより・クラスだより（4～11月）・園長室だより（4～11月）</p>
備考		